

2022年8月23日

「森のようちえんはっぴー」



一般社団法人森のようちえんはっぴー

「森のようちえんはっぴー」これまでの経緯

森のようちえんはっぴーは、「子どもひとり一人を尊重し、自ら成長しようとする力を引き出す」を理念として、2011年4月に開園しました。

南房総市大房岬自然公園を主なフィールドとし、野外保育を中心に保育活動を行なっております。

当初は3歳児クラスのみ開設しておりましたが、保護者からのニーズの高まりを受け、4歳児と5歳児クラス(週5日)、2歳児クラス(週3日)も段階的に開設してきました。

しかし近年、幼児教育無償化が導入された頃から、対象外である本園では児童数が徐々に減少してきました。その後、保護者を対象に「地域における小学校就学前の子どもを対象とした多様な集団活動事業の利用支援」の給付を受けておりますが、園としては運営面でかなり厳しい局面に立たされております。現状では園の運営を次世代へ継ぐことは難しく、認定こども園への移行を考えております。

同時に、まちづくりや移住支援の観点から、南房総市からプロモーション協力などのお声がけをいただくようになりました。館山市からも視察を受け、千葉県でも「千葉県自然保育認証制度」の検討が始まるなど、認知度や支援が少しずつ高まっているとも感じております。

「関わる人全てが幸せになりますように」(設立時に掲げた言葉の一つ)の願いを胸に、これから先も、安房地域の子どもたちが自然の中で育ち、大人たちもその姿を見守りながら共に育つ環境を提供できるよう、持続可能な運営に向けた方策を模索しております。

「森のようちえん」とは

- 自然体験活動を基軸にした子育て・保育、乳児・幼児期教育の総称
- デンマークで1950年代に始まり、その後1990年代ドイツで環境問題を背景に急増
- 日本でも1990年代から始まり、2000年代には全国ネットワーク等が設立される
- 近年、非認知能力や身体感覚、自己肯定感の高まりとの関連も調査・研究される

「森のようちえんはっぴー」の特色

1.自然の中で、異年齢の子どもたちの混合保育を通じて、自発的な遊びを尊重

- ◆ 「森のようちえんはっぴー」(以下、はっぴー)の主な活動場所である大房岬には、森と海の両方に恵まれながら、比較的リスクが少なく過ごせる自然公園であるという、稀有な環境があります。子どもたちは自ずと、生き物に興味を持ったり、虫をつかまえたり、木登りを始めたり、走り回ったり、森の中に秘密基地を作ったりと、感性と身体能力を育んでいきます。



- ◆ 自然の中には日々発見があります。特に大房岬では、モリアオガエルの卵を見つけたり、ヘビの脱皮後の皮を発見したり、めずらしい鳥や虫に出会うこともあります。そうした発見は子どもたちをワクワクさせ、幼児期に育てることが重要だと言われる「センス・オブ・ワンダー」(生涯消えることのない、神秘さや不思議さに目を見張る感性)や好奇心を育てていきます



- ◆ 保育者は安全面を担保し、その日の大まかなスケジュールは予定しますが、基本的な時間の過ごし方としては、それぞれの子どもたちがその時にしたい遊びを決めて、自由に過ごします。大人は子どもたちにすべきことを指示するのではなく、あくまで、そうした子どもたちのサポートに徹します。そのような遊びを通じて、子どもたちは創造性や自主性を養っていきます。



- ◆ 異年齢の子どもたちが共に過ごし、遊びの内容も仲間も子どもたち自身が決めますので、時にはけんかや、うまく行かないことも起こります。そうした時にも、子どもたち自身がお互いに話し合い、気持ちを伝え合っ解決できるよう、大人はできるだけ見守ります。こうした考え方は、「はっぴーさん」として保育当番に入る保護者とも、月1回の保護者会などを通じて共有されています。



2. 地域で活動される方々と連携し、お米や野菜作り、自然公園の環境整備など、SDGsにつながる体験を提供

- ◆ はっぴーでは「食べることを大切にしており、特に食べ物がどのように育ち、子どもたちの口に入るのか、幼少期から体験してほしいと考えています。そのため、作物の植え付け・収穫をイベント的に行うだけでなく、草取り、成長経過の観察、収穫後の調理、なども行っています。自分たちが育てたもち米でお餅をつき、育てた大豆を脱穀して味噌を作る、などもその一環です。



- ◆ 月1～2回ほど、子どもたちと野外調理を行います（感染対策を行なった上で実施）。包丁で野菜を切ったり、お米を研いだり、かまどで加熱調理をするために一から火を起こしたり、といった経験が、子どもたちの食べることにに対する興味を高め、食べる＝生きることへの自信も高めます。普段あまり食べない、と保護者の方が心配されるお子さんが、はっぴーで調理したお味噌汁やご飯であればたくさん食べる、ということもよくあります。



- ◆ 昨年度は大房岬自然公園で、富山学園の自然体験プログラムの一環として、中学生とはっぴー園児との共同作業による森の再生活動を行いました。

また、たてやま・海辺の鑑定団と大房岬自然の家による協力で、土中環境の改善活動で知られる高田宏臣さんの手法を活用し、はっぴー園児と保護者による同様の活動も行いました。



森と海との循環について、頭だけでなく、体を通じて学ぶ機会となりました。今後も、同様の機会を増やしていく予定です。

3. 保護者同士のつながりが強く、子育て世代・移住者同士のネットワーク

- ◆ 新学期開始前から月1回のペースで保護者会を行っています。初回では、お子さんの名前の紹介だけでなく保護者の方々のお名前も紹介し合い、“〇〇くんのお母さん”等ではなく、名前やニックネームで呼び合います。保育者と保護者の距離も近く、日常的なコミュニケーションがあります。
- ◆ 「はっぴーさん」という、保護者が月に1日程度、保育に参加できる取り組みがあります。ご自身のお子さんの様子を見られる良さもありますが、在園する全てのお子さんの様子を見ることになり、園全体でみんなの子ども育てていく、という意識が保護者の間に生まれます。
- ◆ 保護者たちは、上記の他にも、イベント等を通じてお互いに顔を合わせ、共同で作業をする機会も多く、つながりが深まりやすい環境があります。在園時のご兄弟を通じて、異なる年度に在園した保護者同士が知り合うこともよくあり、特に移住して来られた方は地域に知り合いが少ないという悩みをお持ちですが、園を通じて仲間ができたと言う方も多いです。
- ◆ 保護者同士のつながりは、卒園後も続くことが多いようです。これまでも卒園後に山登りや野外での遊びを定期的に行う、といったサークル的な活動がいくつか生まれています。保護者の方々は安房地域内外のさまざまな学区にお住まいですので、お子さんが小学校・中学校に入学したのちにも、情報交換、悩み相談、助け合いができるネットワークが形成されているように見受けられます。

「森のようちえんはっぴー」の概要

1. 活動日および活動時間

	2歳	3歳	4歳	5歳
年間活動日数	100日/年	195日/年		197日/年
1週間単位の活動日数	3日/週	5日/週		
1日の活動時間	4時間/日	5時間/日		
職員等の人数	2人	4人		

2. 通園地域（2022年度）

	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
南房総市	0	4	2	0	6
館山市	3	2	1	5	11
鴨川市	0	1	0	0	1
富津市	0	0	0	0	0
鋸南町	0	0	0	0	0
合計	3	7	3	5	18

3. 昼食 おむすび持参

4. 保育場所 大房岬自然公園内（千葉県南房総市富浦町多々良）ほか

5. 一日の流れ（3歳児から5歳児）

09:00～9:30の間で登園（保護者送迎）

09:30 朝の会

09:45 その日の活動（公園内散策/里山散策/創作活動/野外料理など）

11:30 昼食

12:30 自由遊び

14:20 帰りの会

14:30 降園（保護者送迎）

6. 保護者会

毎月開催し翌月の行事のお知らせや、当番決めなどを行います。

7. 当番（はっぴーさん）

保護者1名～2名が保育に参加。

8. 安全

・野外にかかわらず事故を未然に防ぐために、保育を行う場所の事前踏査、下見による危険箇所、危険生物等の確認や情報収集を行っています。使用する道具は点検・補修を行っています。落雷や集中豪雨等の前兆の察知な

どに努めまっています。

- ・全保育者がMFAジャパン救急法チャイルドケアプラスの訓練を受けています。
- ・全保育者がCONEリスクマネジメント基礎講座を受講しています。
- ・当番に入る保護者は、普通救命講座（消防）を受講しています。
- ・NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟安全認証団体です。

9. 四季(予定)

春 はじまりの会・田植え・畑作り・桃の節句・端午の節句など
夏 泥遊び・海遊び・お泊まり会・七夕など
秋 芋掘り・稲刈り・感謝祭など
冬 おたのしみ会・山登り・節分・お別れ会など

10. 外部指導者

- (1)乗馬体験(南房総市:馬森牧場牧場)
- (2)間伐作業(南房総市:丸山木材)
- (3)木工制作(南房総市:丸山木材)
- (4)米づくり(南房総市:やぎ農園)
- (5)野菜づくり(館山市:石井さん)
- (6)わらべうた(館山市:鷹巣さん)
- (7)みつろうろうそくづくり(館山市:角田さん)

その他

1. 認可外保育施設の届け出について

主な遊び場所(大房岬)の近くに施設がなければ認可外保育施としての届け出は不要ということで、認可外保育施設の申請を行えない状況です。
他県では園舎がない団体でも認可外保育施設の届け出を受理しているところもあります。(山梨県、岐阜県)

2. 森のようちえん全国交流フォーラム

2023年「森のようちえん全国フォーラム」の開催ホストとして、全国より約400名の来訪者を南房総地域に受け入れ予定です。
2019年に岐阜県で開催したおりに、岐阜県内の公立・私立の園からもたくさんご参加いただき、その後に自然保育を積極的に取り入れた保育を行うようになったとも聞いています。
千葉県でもこの機会に、公立・私立園の保育関係者の皆様と一緒に、自然保育を学ぶ場となるよう、準備をしてみたいと思います。

※今年度は富士山の麓で行われます。